湖月抄

ゆ

天曙文庫

乙女　細　巻名以詞并歌号之人節の事あり故よ号とそ

みくしけ　河内抄　詞りいむしはめしまり給ひしとめ

の深と世ぐ〜あて〜寄にいとゝめこをみさびなん天曙紙

ゆゝと世乃女よりひへあれぐとりり　孟　とゝあハ節、薬殺

よ比〜てりり　細　源氏ホ二の四月より ホ四乃十月すぐれ

事みくしけ　花日　孟　源ホ二巻の三月より

年ゝりて　細　落葉の宮の御事　更衣也　世の

中をあ〜もりてゝ　崇徳院　ゝりぐ〜のぐる

どもい海めゝ　崇徳院　ゝりて　ゝりて

いかゝゝこの　ゝれゝ　ゝゝ　ゝゝ

よ　前　殺　ゝ　ゝ　ゝ

ゝゝの　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

　　斉院の女房　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

　　細　崇徳院御禊の日也　桑三日前ゝ　花日

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のはらうえて源氏のまを
まうつく
この中〳〵のくわんしろよ
師 女房言葉へ故別の句
みまゝとえ句してなをと
ゝてしろへ〳〵ハ源の殿
よのまをとゐゆてう樓
のりてくるれてうて
まづくるゞ樓の父式
アマ〻と源よ遣せ〻ゝ
年ゝと物〳〵〳〵
今〳〵めくろ 細 式アマ
文の素氏も欲度みく
ゝまんと八句ゝゝも
思給ハさらしく
殺ゝもをぐゝんぬ給て
細源をゝそ人よゝゝ
ゝをハ口ゝゝをよゝ給
しゝり師式アマも樓ゝく
欲度よゝりまひて源をむ
ゝてえ天ゝゝねみゝ式
アマのゝゝひて山ド寝こゝ
うゝやく樓の出ゝゝゝり
しゝゝの〻ひて殺悔ゝも

と樓よ女文のくろゝゝく
三文のゝゝゝゝんゝとの 細 菱上の母ゝく 物 式アマ文ハゝゝにのゝひてれとゝ文のゝゝとくゝり
てゝれハこゝくバをくゝくゝゝしゝく
ゝよゝゝてゝハゝゝゝて中ゝせゝしも 師 ゝよ今ハ樓の源ゝ年卷とゝりて殺ゝゝう
ゝりゝもゝゝゝてゝハゝりゝゝんゝゝゝ 女五文句く
ゝゝゝゝりて 細
昔よ立ゝりてゝり 細 青
殺ゝりゝ殺ゝゝ文源氏の
ゝ殺ゝゝゝゝゝ 帳
故文ゝもゝゝゝんゝゝ
樓也菱ゝ前よゝゝ
ゝゝをゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝの殺
ひゝゝゝゝゝゝ女文文の式アマの
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のりの法をとりて孟四師六位の殿上をゆるしの袍をきて昇進をゆるさに寄為者あるべきことを
いまこの叙爵せらるべきなり二のみまを六位殿上をゆるしの袍をきて昇進せらるべきなり
殿上をゆるしの袍をきて昇進せらるべきなり一云六位のみまりの袍をきて昇進せらるべきなり
保さうの位をあるべきなり
保さうの位をあるべきなり
夕雾の奇ハあさこまりとやいひまうしあるべきなり
師廉ハあるべきなり
をひつるもうしう
何かの陽をきるくうして今
追つとめうこと爲人 敦彩敦
或敦をきつくハ今こうあるべ
ねたとのこうさんの位ハ
夕雾の位をあるべきなり
早く
ちく進ゆるべきなり
しこうみうれどく 細四条
みを付をもうべきことハ夕雾
の雅こうにあるべきなり
同をどせしめて
をもしこうるれどく
夕雾を
大学寮にゆるして学問せしめ
ゆるしんとのみまを 礼学記を不
琢不成器人不学不知道
細丞相のみ息大学の乃よ

孟師の位者也
で今こうあれどうよ
ゆるしまをもうべ
ゆるしまをもうべ
ゆるしまをもうべ

附よりてこうこう世の人のこころ
よりくれまうこうさとりて
老臭たこめ〜ちをとる
せ仏本めうこうさをこうて
花月 孟本めうこうさをこう
こう〜ほいそうしたく
ほめこう〜〜 駒父史記
花上よりほいせうもろやう
うて下よりいそうこう
をつ〜〜ひとをうして
仰父の威勢あるの内ハ人を
敬まひやうゆへ人めう
くせ人のやうるこう
りく人のこへうくを
とめそこうへ
ところうこうさ人よ
抄 附代うこう或権威あり
敬ふこうをれこう附ま
めのあるうをえこ

とうて うんこいいとこそ 学問をこいろうこう思べ 地方也べ
うめふこうこうれまうびとこのこて伝ふん
まくなる 衣冠 爵よのがりめんいこよを
こよ世の人乃ちこゆはこうれちがこうさを
しつ例いせうこう 戦争をこうこ
ほどいをめづこへ人とゆがして為んこを
さやうこうれどこうこうこうづこ人よた
ちをこれて世おこうの子をもよいよこうめ
めれづこうこ 抄 是ハ漢戈こう 而ちここよりん
伝行ざえをりこうてこそやこしおを
ねの世ちりこうひこうこうこをこうこう伝
らめこうこうこうこうこうこうこうこ

やまここうこうね 和国魂 和文魂魄也 孟 りこうこの文を虞世ここそ日本ばここを
和人こここ
こうこうこうて 細 南附ここうこうこうこ抄 南公のここり
六位こここ ハ不足こうこうこれこう後景をこうゆこうこ
こうこの世ばこうこ
抄 夕旁流よハ政道輔佐の
賢臣のこよりこうこ
伝ここすこりこうん
細 源のこうこ如結ての後
こここ
せこうここここ大学のこうこ
あこうこの物伝ふこせま
こここうこ大学のこうこあ
ここれせこうこうこ霧着
せ冠 抄 冠者をこうこに人
のあるづこここ 玉花 霧
こここて大学の伝ここそ
のこう暴進をこもせぬ
人とこうここて ハ早下乃
知こ 孟 源の夜金の学ハ
伝ここ人のここまここ
りよこくここ学ここ人こう
こうこ 大学知ここ
ここここ源の
ここうこここここ ハ学こ

和人ここ 細 大学 所 中庸 知 大学 明 大学 早上 細 我 清こ 大学 明 孟
ここ 源の学こ 言とこ
こここ
こここここここ
こここここ
こここここ
ここここ
ここここ
こ

みきの巻のあらまし
つき巻のとき

くらあくだ（細たゞ別腹の先者）左傳の巻のゆどとをゆどと
紙ゆいはげらうしゝゆらうしゝゆどる
みをのく（加階）くいゝのゆりつゆゝけあ
ゆゝ（夕旁の六位と無公卿ゆゆとゝ）ゆゝけをいとゝゝとゆゝれゝゆゝ
ゆゝゆゝうゝゝゆどるゆゝとゝゝゝゆゝゆどら
ゆゝひゝて（俗用）ゆゝとゝゆゝけてゆゝゆゝゆり
みゝいとゝゝゆゝれゝゆゝゆゝゆどよゝて（細夕旁のゆゝとゝ）
ゆゝゆゝとゆゝゆゝゆゝ（学問）ゆゝてゝゝゝ
他のゝゝゆゝゆゝゆゝ（今長ゆゝゆゝゆゝ）ゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ恨いをゆゝゆゝ
ゝけゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ（夕旁のゆゝ）ゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
是[illegible]詩人どもの詩は
つくれるかをとて菊の
花よ去し
雪の芸をむつび枝の雪
とる〳〵　晋書車胤実
武子南平人也家貧不常
得油夏月則練囊盛数
十蛍火以照書云云孫子
世録云孫康家貧豆油常
映雪讀書云云　河東
花車胤孫康ハ家貧して
[illegible]
ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

この後のくらゐしつてりて　孟二条院の条院より房を作て師とけて学問をせられたり
ゆゑ　大夫ハ多芳を
大夫の方にて学問をしてをきたりのやうに知文
しるをつくしもかつ　学問より若ひろ文をよとをもひろく　稚ハ雅　名をうさ紀ひろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大学寮ニ学ブ　細川氏ハ勅学院トシテ立玉ヒ源氏
ハ学問所トシテ設ケラレタリ　藤氏ハ学
問院ヲ立テ給ヒ藤氏ハ学問ヲ専ニ文ヲ
ヒラケ作ル道ヲ立テ給ヒ藤原氏ハ
世ニ文人ヲ多ク出シ給ヒ源氏ハ
武ヲ専ニシテ多ク出シ給ヒ
文人ニ成リ　細川氏ハ文人ハ文章
生ニ成リ　文章生ハ擬文章生ヲ
文章生ハ擬生ヲ擬ル　或擬
進士ニ云　細川進士及ビ学ブ
所ヲハ擬ル事アリ　文教ヲ
アゲテ以テ二ツヲ立ル方ニ
ノ家有リ　方ニ
の文章ハ文人ハ本
の文章ハ進士ト
て成ル　進士ヲ擬
文章生ト云フ　文人ニ
成ル　文人ハ擬文章生ハ
擬文章也　文章生ハ擬生ノ
師ハ前ノ試ノ博士ノ
師ハ前ノ試ノ博士ノ
史記五帝ノ記ヨリ三帝以

治ヲ成シ　細川氏ハ
世ハ上中下ノ人ヲ
ヨンデ　文人ハ擬生
文人ハ擬生ヲ
文人ハ擬生ヲ
文人ハ擬生ヲ

弘徽殿　細ちごの帝〳〵の皇女し孟　みをづ〳〵よ十三そて内へ参ふと
こうきさうこうきさう　仮　奇文こうこう弘徽殿こうきさうぐ
参ア々文　細　然上文こ桃園式ア々文薨〳〵
仮ちごぐ〳〵王女御　仮　同〳〵ぐ〳〵ハ秋好ハ弟坊の御女こ　是ハ式ア口釈王の御女なれハ同王女御ハ
王女御ア　河朱雀院皇女昌子内親王　冷泉院女御　世以稱号王女御　ナこ九王女御ようぐ〳〵
と姓そも前ハ〳〵ハ付こ　李部王記よ母女御　源女御　ア〳〵
母后のおほ〳〵きさきの　仮　高雲の母こそ
ちうりうこ式ア口の高ぎ
よハ内〳〵のうちこ　細　古母御息
ハさいこの　所ハ不幸こて　こ弟を
引こさいこハ〳〵ちうこ
中〳〵大政大臣よあがり
細　動例　仮よみ〳〵こり
光　内大臣　仮　政大臣　中
義こ　藤　任　政大臣
元内大臣　但　南白也　光〳〵り
仮八連綿こ信長こ清盛
こ　内府　こり任相国せ
らるこ　孟　みかづ〳〵れ者に
内大臣ちく　て相国也
河皇子任太政大臣　例
大友皇子　天智天皇　天智
御子

天皇十年始任太政大臣　仮　高市親王　天武天皇　持統天皇四年任太政大臣
大納内大臣よりなる　仮　右大臣内大臣よりなる　河　内大臣　仮　政例　忠義こ　堀川南白　兼道　天禄三年十月廿七日
高雲の者よりなる　内覧同十一月内大臣　中南白道隆　永祚元年二月廿三日内大臣　二年九月南白　帥内大臣
内覧　伊周　正暦五年八月廿四日内大臣　長徳元年三月八日内覧

ちゐ帝ごもりうこく　細　林　是よりあり
ふ帝ひそれハ　細　ちごの　ハ
うどあるやはごとようこくるんそこく
よれみどもす十余人ハ　孟十人ハ　仮　系　嵩　よ　戴　不　十人ハ
を　つぎ　よ　ちりいでつ　細　仮　よ　ちこ　細　こ　ちこ
こ　ちれ家の　ちり　女ハ　女ハと　今　一和とる
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ

それよりうせて後の年に
細殿文よりそ人しるを
とりまぜてしるせる
かくの吳竹わすれ

なかく十よ　花やかしに
のかく夕雾と年十二歳
よりわかまつ　細夕雾十
二歳　雲井殿八十四歳く
ひろまりさ人なれと
夕雾ハ世さるさしりみ
ちくひうしうく仇男
女の中いまそせわ人さ夕
なりとく

どもの心ぞ世なりて、それよりまもなく雲井殿
後の年やよゆつくんいとあいなくて、内府
なるらゆくしまて、えそもそあづけゆくしまへ
つとくろ女はみはいとこてるくゆりひゆく
ここぞ内府の雲井と思ふ　盃雲井の殿
くそれど人ぐくくらるどいとうろ
くうそゆくしろ夕雾ざの赤ひろいよ
て内府のくこ　ゆひくまひうどとのくナよあるり
まひく仮ハ方くくみくむつりさんを
ゆ出でかのこでゆくらくまりさ物なり
とくゆくこくくまひくけどとやい
よくくと、ゆくれどくまふつくるさみ
あくねどつるさ紀ふよつけくもひ

みみあそびのつあせうとゆんどつよ物
夕雾のまあ
つくれあくくらどくくとくくまへど
雲井殿もく
いくどうゆひくてけどやうみは今を
くくらくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぢくさすこと　細たま
みくとくちをえろ
ゆ柱也比巳ハ柱とえ筆
してハ柱とえ日さく

さいくのようちえて
細太夫の羽ゆゑ上のさい
くの人るるをそろ
えそうえ人うりや
ゆゑ上の義しもぐれゑ
むせてもぐれうえ
とのうゑ

しさとるれるどのまひて文よそくの
しゆゑ給へぐ　雲泡
なりまろうやとの人ど地と志ろうひ
さまゆさいえ　仍
めぐうろうろ人かりや　ほのく　ゆへの世まりさ
まへらね女ぐ　ゆゑ姫文のまく
えてもや　姫君ども　けうをもりて　細　雲上樣まみ給へく
ゆゑまるうえ　ぐんしゆうえやんぐうるさに
人りうぐ世ゆ　異四方間
ゆふ女ハゆぐ　給へるぐ　ゆ
うゆうえ　細孔微笑
給ゆく女れ　をけうえいわうぐ　ゆふぐし

ゑ人よをうりてい地ひゆぐうしゑひまひ
しうぐ　細　女ねゆ　ゆゑれうえ迷懐とのまうり
ゆん世いうひのゆうゆとひゆゆうゆ
細　雲ゆ居　ゆゑいうぐ地よえる給へ
ん雲ゑのい　名　衣　こで今のくふうり
ゆうとく人えれぐうひまへらぐうる
とうえいふさゆへのくえ　名　右ぐね
てまえ地ひをぐひぬれ立出給へら
ぐうえ人ハゆビくて　姫君ゆ　ゆ
んよゆうてぐ　ぐうえ人ゆうぐくやと
うえうげさまへばるぐうえゆわうん
内府の家　この家ようすぐの人りてりの給へ
でやむやうゆうぐと　故地　ゆのゑひ給

ゑゑゑのゆ文服　細　朱雀院
のゆよ故よ今上とりせ
しうり盃内府のゆよ東
ゑへゑゆ居をしゆえれ
ハゆゑ姫ゑのゑゑれよ
ようえ給ゑえ
うえゆさいくの人のえ
の居ゑゆ　盃　細　ゆゑ中ゑを
ゑり　ゑと希よ給へゆ乃
しゑを慶ゑ夫ゆうり祝
のまへゆゑ姫のうえ
ゑゑれうゆハゑゑ侍勢
給ゆゑむとゑゆとゑえ
地ひをぐひゆれ　砂後
地へうくゑをゑすぐゑ
盃ゆゑ姫ゑのうえ給よ
ゑゑのにゆひなる給へ
ゑぐうゆうる　細　太夫の羽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
可以濟聖賢之功寸陰可以定然士之業言遇時也故曰才不半古而功已倍之蓋得之
於時勢云云[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今はうらめづけてそ
死なんずるうらまひて
帥内府の今はでいづ
よりはるもてぞ今もぬる色
うせはやはるとまる

うらうづ　孟　内府
帥　なまづ　因
うづつうきれたる
細　内大臣のはんをんを
思く　帥　をうしうしく
くるつをうとうをんぬ

ゆくすのうをく　細　秋ぬ
立后のまえ　姫　思ふと
立后あるんうをうをん
をんぬ

いつまでうらうをうをうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くろ。内殿大政大臣公孝の
母也世継よあり
えのかりてみしーうり
大ぬさ人々多勇のゆさるさ
そどいらぶてをみるもも
るさとめのとのさるを
しているよりとうう
とあてをーうとと
ねくーづらうりハ
おほ殿おめとを逆のさと
なまれてえ初し孟春と
年うういうとあて
れ程もなくけざやうよ
とハをーーさと云慨
わるさんとてもうらまき
まづと　ねてわるさん
ともはを色なう人伝
とあんをいまざれる
と世づさぐをーるす
もあるをとと
爰ようぶれうをろ
孟夕勇のうらうぶれさ
ろくとこハなとさとの後
うり

同
ひまめくこてあーめ。これいあげこれ立ま
ぶりをて。年ぶゆくーりつを。なまくたえ
げるされ行を。えの乃れりてをーうりさう
をぐーてを。湯ゆめしさをんと。うらとけ
くをーこうとつるを。ゆくーーぶうりう
はけざやくるをれりてをーよ姫みく伯ある
よ。わるさんとてまうちゅぶれどをいう
ようやうるさうをんとゆをすべうめうを
爰ようぶれうをろゆをうまで洗
ぶでーさーーをひうーざりけうこと。を
おほ内大臣（孫もをーにゆまで）細内大臣の伯
のがどうるげくーあーをぶーうこと
りーぶ。うれあるまーぶこをるれど

いとうりをかよも
所内府の大臣の云わぶと
のをみいとかるあーー
乳母ともはつをるさやう
よのをふをうれくをを
お雲井のををいをうの
をふいとかれをえく
大納言殿よゆ給りん
細按察大納言と弄雲野殿の
母按察殿大納言のお方
よてをうりをふよをて
をりんとをぶうく
やでををさあても　名勇ハ
めでををさんとてもをぶん
をれいぶひも名をど。女は
后よありをみをとをて
ねぐとをく宮めのとの姫
落ゆうり伯く

（別として御とそ歟言よをうりせとを）
内府の爰、雲井を源氏
よ。ゆうーをよわうーをりてをんをやのれて
ろのいとうれをーをれとーーも地をとをれぶりうんと
をいをとうれーーくの結
のをへばいをををさ中よをとうれーーくの結
とをひてあをれいをーや。大納言殿よゆの結
んをを紙ををんをひ結れいめで。ををみくも
ぶをんのををぶーをのめぶーをようふ
おをんをりんとをを。ひめぶををいとゆをれ
げをうゆをを。内府の扇拡あれどを
ひめぶををめくををぶーよりをんぶと。
いをよをて。内府のを
ををとあをねぶーらかををて。
をうぶーよゆうりをふをぶをさ

いかなりしてか　姫君をうしなひたてまつるやうよ
うなる心地して　ものもおぼえず　ただ夕秀を
盃たまはるのいとれも　涙のみうち
ながしてぞ思ひ

とりあつかひたまふ　細　内大臣は　姫君
をはらひ捨てて　盃をひき
我　ものくやしくもひとを
行へ　知らぬとぞ

仕まつりかよ　細　姫君
とは　ものくはしく　夕秀の
かをは　誰人とかは　もしらぬ
ぞとなりぬ

わざはいとぞうらんとものびてさるべきさだめ
のまて　たゆめとのこと　恨　ことはてて　法　ないとく
ゆくへとも　中　ぬと　ぬ　ぞ　ぬのれくるし
こはそれ法　やわらん　うらんのあり
たまはるもうれしきひまふし　うらぶさてよ　ものけなく
のやうよ　ものこと　のやうよ　えの法　ふとが
こよなくさこと　ぞうこと　ものさ　内府の　りてうこと
つき法　こと　てくまてうづんと
思ぶこと　ぶりこと　ものかくりてあそ
めこれぞこと　表　花の　ものこと　思ぶ
うけあれ　ものけてこ　人のもく
をあこ　ぬ　ものよまこと　こんや

うれしきことをもびきりこんと　ものこと　ものこと
仕　夕秀のもとにて　夕秀の　あよは雲
内の殿　ものあり　皇女　ものこと　ふ物
ものこと　ものの　ものこと　ぞ
ぞ女　ものこと　ものこと　ものこと
うふ　ものこと　ものこと　ものこと
ようけてこと　細　ものの
仕　ものの　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと

[illegible]

孟夕秀ヨリ對して[illegible]

[illegible]ヨリ内府の[illegible]

[illegible]

孟[illegible]

[illegible]ど内府の根[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟夕の[illegible]ば他ヨ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲井のくもゐ　細　芦の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とハ夕雾とのハ中ぬ
さくらくさハぐ
細くくてそらぐさ
くもそひさまいさ
ゆとるひさろんや
孟夕雾ハ池しや
さくらくんとろ
をみ達てぐその渡を
つくり出ろろんされ
ど夕雾ハ出さるさ
只あるぬとろ行と
のそひみつく
ゆくいその
細四方屋世女へ
さまつろし雲井屋
をわろハ方よろう
らんと
くくくいとむつくさ
細紅微屋の立居るさ
金ろくそひふ有里よ
出くくんを花雲ろ
の屋とも里ろ玉なろ
へさしのいるくろ

ざりそろ・まろうくさんろろべさこくを
ばさぐりけっとれうろだもいろぐ
あばめさこめればえこをろよろ一結ん
ど・ゆくるびくろんやろべさひまとを
つろ出ろろくんされ夕雾十二条ぬ
只あるぬとろ行と雲井屋二条ぬ今ろろ地くろ
のそひみつく
ゆくいその
細四方屋世女へ
さまつろし雲井屋
をわろハ方よろう
らんと
くくくいとむつくさ
細紅微屋の立居るさ
金ろくそひふ有里よ
出くくんを花雲ろ
の屋とも里ろ玉なろ
へさしのいるくろ

うのそひみつく
ど・女とのつ
くくくいとむつくさ
内府四男ろのふ
中女のよ
女れのせ

盃内府のくろ
内府様屋ろ
内府四男ろのふ秋ぬ中女の
内府のろ
内府のろ

くくくいとむつくさ
細内方屋の有ぬ女御の四里ろ
ろくくく

[illegible]
みの父母よつふすつるみすよ身よぐとろ物の一たりそそ下畏は浪らるくみつぢ〻く細
嘆のれ仮を見人〻
をつづ〻けづくさも
盃雲井と文芳との文
らひのすく
ひとりの和せ〻まて女ご
細蓉上せ伊たえの内侍
せ内府の雲井とひら
ひよ身そ世〻よのすく

ふよあるとふ 細一説に
ひりとふのかよつぞき
て地げ方すもつ〻と
ふ和とうけてふのつぞ
なりさあよふよふとう
とくとと 盃ぢぐふ
よこめてはをゐ一旦中みと

[illegible]
ひてあづけ〻うと成
人をを〻まてうとれひ
後〻〻ゐとく伊は細
はよへ分てろろべしぶろと
をよ様びわざやもして
歌めよとうひまてすん
ちづ〻〻雲井房をとく
し伊とのかてみろくそ
らてゆ人すをせゆうす
とドまつく

あ〻〻さ海 細 曹河とふ

ひてあづけ〻うと成
人をを〻まてうとれひ
後〻〻ゐとく伊は細
はよへ分てろろべしぶろと
をよ様びわざやもして
歌めよとうひまてすん
ちづ〻〻雲井房をとく
し伊とのかてみろくそ
らてゆ人すをせゆうす
とドまつく

[illegible]
りをそ〻をよなんふくへぶてそ
あふ〻とはいいぞうをぐ〻ん西よさ〻〻あ
みををを細とのふめ
かせ中ふ〻〻
一いとつまぐ〻よゆりひふ〻ふ〻ぐれぐ
ふ〻ぐ〻ふ〻ふ〻ふ

紙にてぐしてくしとき
大文字もたゝせてくるくるの
ようをひとりまゐるまゝ
とゝろり
さきもてそはめ
おさえて又夕秀実野屋の
ようはさもあれとゝ
ぬぐのりのくゝを 細 野
の中にてもかゝるこゝと
せばやくはのひとりも
ゆきことのそゝりしかす
はゝ親多ひとりのあやまち
よのとゝりひまつるとう
らとゝろつゝ
ゝこみて見ゝより 西大文字
何わきを掘てつまてゝ
ゝふゝもみたゝりまゝ
おくゝやわんゝ
代氏はたゝ 細一月より三日
いりたる文字よりまりゐゝと
ゝしまあをてたびき
ゝり 西内
たゝ多おゝ納ゝ兵仗行燈交
細 名大文字の仕様く 仲 代文字

はあれ 細夕秀 実野屋
てくゝとまりけりゝよゝさゝ
しそはあゝ 内府
ゝゝ地くゝの和乃うゝをゝ
ゝりゝひゝくゝゝれをゝんゝてくゝ
ゝ治ゝゝこゝくゝゝりゝゝ
ゝりゝゝもゝくゝゝと井ゝゝて乃ゝ
てゝゝゝ治ゝ
やゝくゝもゝくゝゝ
ゝりゝゝゝゝ 夕秀
実野屋 ゝのひまゝりゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

ふるいなさうなき
細内大臣の人々せうして
夕霧ゆゑ今てもあるべ
きうとゝいはれぬせど又それ
も口惜しく作久を書
とうくあらそめうると
云うるさうまくうふく

こうみもうこうみも
四位ゆきたゆみを大臣
の御ふとこうまして雲ゐ
どうおいとりまふく

うらよ系伝て夕つくさむうへよ多り伝く
んとて御おぬいふひるさことをおぐく
うよいるひまて さてりやあくもしとゆが
とど我いとんやまうくれだ人の伝行のと
うりのくもくるりるんまうこまるまくだ
まうて その行ぐこのうさあれくまん
ともむこうしさをとこさくめくゆるをともごと
のやうみてこ
さうくなるやうよりてをうてこそあくめ
孟制諫作 兵今のかくいと
せいしいさむとと一ふみくい世さるさん
のまくよこぐうこうこそあくめ文もよ
をめるぐうよせいこの行ことあくとれ
ぐをば世れのゆうまくまことつけてこうよ

夫の中ってこみくく 細同廣
みぐくをくよ位まを加
よ文ををりまるく
ゆくぐこそうくくをを
ゆ文何く内府こそ大文
へ市隠恩ありくを雲升ノ
居ハわが志どこうまふ
らんとく

もうこうおいくくよいひまて
給世ろう文のゆうこうて ゆくぐこそ恨も
しゆうめ まいはさうくくんぐこのわども
ちう給くん 大文の方こ てこそまくとゆく
まくをべいとおりくげも ありさつくうひく
もうまくりう十四よるんおつりうくこる
つまよこまくどいくこありくうもうやう
ようりくくさ面こまつうくくくけ
をくどゆ言のりくあそびゆよひゆ
えつくを さくりぐもくくあるぐこれ
つまくるくくくひの行あくれ書行を
くくりひまぐくく命をくそひつれ

ありをくゆくよりの行を
大文の中年寿まへ雲ゐ
の行を来をみくりす
くくくくうけさつれ
今恩命の中九列と思
うゆねゆくくく

[illegible]

牡丹花伝云 [illegible] 李陵別蘇武之時携手上河梁遊子暮何之 文選相似歟

[illegible]

孟内府 [illegible]

[illegible]

今[illegible]

[illegible]

孟宣公 [illegible]

[illegible]

宰相殿 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

さわれ　細さわれせみさ
ぶれとしむ人をあり
孟左府入道とさぶれと
ふもとをうかへてあ
まつ　伊　辰まうぐをあ
よみぐぐひうんと
いひくどゆをてい
れまうんと

細夕雾の御門大臣のいとつくれば
ぶくのはんのいとつくれば
ひやくなんとせんと
こそうはをん
こそうるうぐくれてすくひま
ありぬべうつつ日ぶそよへぶこつ
んとの絡さ風をいとうう表げされで
細雲井殿　伊　夕雾　雲四ノ
まつもさそいあくめとの絡　夕雾　雲四ノ
雲ゆうとのうへいとそうるづき絡
雲ゆうとのうへいとそうるづき絡
風ゆうでくふけうひうくとひの
孟車の前中　細　伊　雲井　夕雾
うれさうきの声よんぐそやるぐ
雲井　細　伊　雲井　夕雾
さはげいとゆそうとそうてうる
雲井　細　伊　雲井　夕雾
うる絡男ハうもさうれぐとひうよゆ

男ハうもさハうれとひさ
うう　細夕雾ハうう
もうくうひうくゆ

ハ夕雾のうくとてもさや
うよりてさうれハ一四よ
うくくもうくうひな
つて雲井ノのうくん
ともうとゆうもうぬく
あみんつきうやぐよ和
うをもうね　細夕雾ハ和
まうぬうあうくハそ
うぐとくうつく
うぐくくくもあのくじめ
の六位もくせう
伊夕雾ほのゆうとうう
ても雲井嫁妻のうぐ
めよ六位ぐの人ハ不足
うう絡　雲井　夕雾
ま梅の妻とうう

ゆうくうれうぬ　雲井　夕雾
ゆうくうるよ　雲井　夕雾
ゆうよ　夕雾　雲井
大きくう
うやうくを絡うぬうとハあくぐうう
とうつよ　いとつくいぐやうう世う
よ　内府の　雲井　夕雾
風の中ぐの絡とハさうみを中くぶ
雲井の子文　雲井の実母の妻
大網を風みとハつよこうを絡うん中ぐくく
大きの絡乃　夕雾　雲井
のうくゆ　夕雾　雲井
ぐくくうう中くぐ紙とバ絡ぐと
てくうるひうくうう中ぐくとよ世中
うくうくれハ表とうくうくうくうくてら
うくゆぐ風しくれうくくゆ　細夕雾の御　雲井　夕雾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

會去年くまこと　伊勢ハ伊ねの年ハ公卿二人殿上人受領三人四位之代始
よハ公卿二人殿上人受領三人五位之今年依爲新齋會若四人歟公卿二人者按
察大納言尤衛門督也殿上人受領者良清惟光也之云愚按これハ惟光受領
こそ　細　去年ハ藤宰
の孫宰也今年ハ宰
相中将ハ
按察大納言　宰相の
又ちうぐう　宮の
をおとゝ　細　菱上の兄弟
也　宮ハ卿ハ也　仲内府
の子　他腹　細
人の
人ハ上ハ出ハ
受領の分ハ殿上人
ハ受領の分ハ殿上人
乗一動殿上人乃
ハ大内ハ
細　三位
葵姫
代始ハ
ハ
ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまもとらしてひやうよ
盃 葉姫は玉井うり
かきのもとにて

ぞうきんをいろやまげしてそひふて
細 作者の
ぞ。ぞみの人の四位とそえて。いまもそて
細 玉鬼屋より仰せ
そひやうの。やうぞのやうぞのことそびかり
しき所いまもりてえんをうれでて
まやうよいそうぶ。ほのいとうそびか
ら。そ海よこうろうとはるけまど。
そ。みそ
細 ふとうえうろうう
しまふ。伊ごろうまうやーとうな
夕秀 盃 力青表紙
あまよますそよひあれぶんもわ
ぶ。そ。ちつけやろう。わ。ぶかーさ
作之姫
細 山女のそうう
ど。推しまれとえるさまびう海むつー

あまよまとよとうひあ
河 於
みてぐいわづよい
わーぞわまよまそよ
とうびあのうそて
ぐ。細 を鹿右神せ式
人りい天人し華姫
とえ我御ぞうんをたぐ
へうそーしぶあをわもう
ぶ。い標ゑ右ハ池を代
スルとてのもうし神事
のわうれハ注連よこーよ

せーうう。盃青表紙よハそーのうう姫とあり用之惟之ハ接続するとあれハ是ハ姫ハ
作者共二説かりまもそ西姫とロあり。傳ぶ。むそめるれバ作者の説をひく
ら人とうう。拾 生 秋名作の作ぶ。延喜式神名帳式番豊若宮トアリ
ぶ。作。細 久ーさせーりのハいあうりにうつけるうと。まうぶ。の書し河 山女
みぐ神ウう山のうぐうさの久ーさせーう
夕秀 作者
そうよ。けーうーうじそふとてさうぐうう
ふふそくのうどうとうう。てひーさはが
ぶうとうう。

しうるれいいとロかーうて。夕秀 ぶ
ぬ。わうぐ。夕秀の六位 れのハやうれれ西人ふり給と
ぶもぐず。地うぐり給と。夕秀 ふふ給よとつけ
て。盃衣うぐ海うれうう夕秀ゆうれて
ふ。ふびそふとうーうう地うぶぐ
ふ。ゆーうけてぐれありうさうふうぐ 冷泉流
うよゆ。夕秀 うぐめうりて。ぶうう海ぶべ

ふせしふーうけて
細 ふ宗紙の日玉衣とうう
く。余勢ぶ。宗流左府記仁
平元年十一月十七日癸丑
晴。今夕ふ節。糸内所長
赤袋。聽直衣之宣旨。東
帯。糸入袍。面目仍不糸
内。ふ。ふ。ふ節の次
上古ハ玉衣と聽。
ふ。も。次ふ玉衣と聽
しみ。
ふ。依物。伝。墨。墨。

五節のまいわらべ　さハ
花十二月中世日舞始
入或曉系而有帳巻
お御一寅日御祈試御
日童女御後辰日節
会舞姫進舞装
東巳日八赤色唐衣
寅日八青色唐衣辰
日ハ掛唐衣赤紙日
落紙舞ホ也ハ掛ハ小忌
也
物ゑうげ　細　まみ地し
何事もゑうゑうゑ
るし

まこの舞姫　細　上古八十
三也今年八年もけ
ゑうけり
げよゑうゑうけり年し
あの羽よゑやづくもぐ
作ごとめゑうとゑられ
いとありしどけてゑう

てゑうゑず世よ絵づゑうきれゆゑうし
五節のまいわらべ　さハ
花十二月中世日舞始
入或曉系而有帳巻
お御一寅日御祈試御
日童女御後辰日節
会舞姫進舞装
東巳日八赤色唐衣
寅日八青色唐衣辰
日ハ掛唐衣赤紙日
落紙舞ホ也ハ掛ハ小忌
也
ゑうくよにゑうくしまつゑうと舞姫の
ゑうぐゑうくくゑ（惟光姫し）（按察の姫し）ゑ綱ゑ屋ゑうはどゑれ
ゑうゑ入屋のゑ入
ゑうとめでのゑうげよいゑうゑうげ
（細巨ゑゑ）
ゑれどゑうゑゑうゑうゑうゑうはゑ
（源氏ゑ）
れ大殿よはゑうゑゑうゑゑ猶ゑゑゑ
げよいゑ海めゑゑそその猶ゑゑゑ西ゑで
ゑうゑゑゑゑゑゑゑゑ（人の猫ゑゑゑゑゑゑゑゑ）
ゑうゑゑゑゑゑゑゑゑ（ぐど）神ゑどのゑゑゑゑ
かゑうげゑうゑはめゑゑなゑゑ
例の舞姫どゑゑゑゑへゑれゑゑゑゑゑ
ゑうびゑゑ（民内裏ゑ）げよゑゑゑゑゑゑゑゑ屋ゑ

ゑ女ゑも神ゑびゑゑゑし
花蔭のゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑ（細）ゑゑゑのゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わらはされしや　決め生徒
の間く花数里の形よりぬ
もんりへとられい源の又花ま
くなよりんりつくこ雲井屋
と名ろはわちこのしと
ムくんのろくくやくくく
るくん　おそ花数里のんは
へうしと夕雲のこうと
きこむうんしてみうん
細夕雲の花数里のさ面を
ろひまりく　盃ムんぐ乃
やくくくうるうぐくりを
ようとろうてこうむ
うひてこうよくくうあ
くてくくの後く
屋のこうくなうれくこうら
けんと　おそ花ろ里のくこう
をくくれめと源のこむひ
なしハ三ろりぬるをとり
く屋ゆふぐくり　細九帳の
ぐてをこう考ハ屋くて
くうこくよこうこうにう
すくこくんとるめうし
く姫なるく　河水川絵神の

源のく屋ゆよりくなうんハやくどもてよあうりもくれ
ぶわさく又ぶふいうもてこさわるぐくくさるうれ
花雲花物語第廿九云徳ロこあのくさなりくくうう行くくのこ屋ゆふくやのくん
いくくとこうぐくくくく
ちくあのくうちくくよあくくまもどうぐくこくくくう
のくくうくくにまくくすなり

くくくくよゆくくまもどぐくくくよ
らよゆくくくうみもうくくよくくくん
ちくくくあくくく

みちもりのこと
おん六位の蔵人なり

てもとるを、こうもりのくのこゑぞゆれば、
おん身のこゑ　ものゝこゑ　ものゝこゑ
ゆつるるとゆめは、あしとうらへ海
ぢうゑひまふ、ふるよ、みてくいそぐと結
うんとゝゝ　孟　ゝゝのはなゝ
老　ひとぐ　細々ゝの句　ゝ
れとのゝまんだ、ゆいれどくもとれゝうら
ゝうぞすりやゝひとりごゝて、手洗ぐ
ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲の　細　清輝卿や、後鳥羽院の御時の歌にも雲よ及ばぬ雲の上の月の光を見るにつけても、花の盛りの春の日の、花の雲のあなたにかすむ月の光を、

[illegible]

[illegible]　細　雲よ　池なり　孟浩然の詩に、池なり、

[illegible]

[illegible]　琴　琴　琴

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

度よ梅花あるんとあり
しるべさいがーとして
中文い海佛 要引く

中文いとそうのべ文絵例のゆひしうに
氣色ばまぬ花数墨ぞ。を取そひてう
例うひ絵。笠の山。笠の山うひいばばよめく
ねどいと心ことなり。山車十文れ前四位 細六位
ねいとくるしきうらいく
をえくをのうり。こんくさ絵よあり
世のそしつりやとうさまれく
みよくとゆばうくくしうめくこと
といる。今一方の山氣色を世まくれ
う絵つばく。絵後の色そひて。そうこい
りそうばうさまいばばようをあばさ
うと世うとえくう。女房の書見

今一方 細 花前墨之前
よ花ろ墨ぞこの夜を
のくいうろのきふまり
絵後の色 細夕常之花
ろうとよ絵をーー絵
あく

あそくくのうまげ
細こわけせ 孟 見く
細分 絵月 絵わりを
世りあくくくまわうよ
うせきのうろくく
うはつど 孟 有略あ
出くくもくくくくき
絵世のそくつとせば
くせくろくくくくく
ろばいつどいとあせ
とうり

まらばおそくのうまげぞ。六方のうとうち
をりばばくうろう。文六日ろそく。中文まうば
ばよ梅ふあ
うせ絵ばばば
とり。れさいいくのをばれまりろうばば。
うり地まて。れ絵のう絵あくをを
まくるかりをば世よゆりくゆをいれ
まくるくくくくくてうんかりまりる。
このゆうくくの中のくばそみは。へいば
ばうばばばくくゆうくよりく。
けりくくかりくくあくくひよ文のくうり。
九月よりわれば。絵墨むりくうばば。文
のかくくのかくくくくく

わすれがたきこのもとの花紅葉
秋の夕ぐれ
秋一緒 わすれつゝ幸安かりわとこわかの絹よりもすゝびかるゝ物とおもへとも
ものゝ物のもとの花紅葉
ものゝ物のもとの花紅葉
ものゝ物のもとの花紅葉

ひめこみの
盃の姫君の出しあ
と出りめもそもし